



「人間大事の教育」を通じて、子どもたちの将来に続く自信を育てる

株式会社ケーイーシー 奈良県生駒市

奈良県内で「KEC セミナール」「KEC 個別」等の学習塾を展開する株式会社ケーイーシー。

同社の小椋義則^{おぐらよしのり}社長は、前職の大手人材採用支援企業で培ったコンサルティング経験を活かし、ユニークな企業経営で強い組織づくりを実践。企業理念である「人間大事の教育」に基づき「子どもたちの10年・20年先にも続く自信を育てる」ことを自社の使命と考えている。

同社は、少子化で縮小する市場においても顧客のニーズをとらえながら、「奈良県になくてはならない教育機関」を目標として、これからも前進を続ける。

会社概要

会社名：株式会社ケーイーシー
所在地：奈良県生駒市山崎新町2-37 エミネンス生駒1F
電話：0743-73-3323
FAX：0743-73-3423
創業：1977（昭和52）年11月
設立：1982（昭和57）年9月
代表者：代表取締役社長 小椋 義則
資本金：2,000万円
従業員：約400名（非常勤含む）
事業内容：教育産業全般・小中高生の受験進学指導、パソコン教室・カルチャースクール運営等
URL：<http://corp.kec.gr.jp/>

企業理念「人間大事の教育」に基づく経営

奈良県内に集団指導「KEC セミナール」10教室、個別指導「KEC 個別」12教室等の学習塾を展開する株式会社ケーイーシー。同社は、確かな合格実績に加えて、企業理念「人間大事の教育」に基づく指導で保護者からの信頼を勝ち取り、成長を続けている。

代表取締役社長の小椋義則氏（34歳）は、大手人材採用支援企業でコンサルティングに従事していたが、2007年、創業者である父の経営する同社に入社。よくも悪くも「昔ながらの塾」であった同社の改革に挑み、翌2008年の年明けに2日間の社員会議を行った。社員との徹底的な討議の末、創業以来の企業理念「人間大事の教育」を核にした経営方針を策定し、組織人として行動すべきルールを明文化した。古くからの社員の中には、急速な変化に戸惑い辞める者もいたが、志を同じくする社員は残り、自身が「第二の創業期」と語るこの改革期を乗り越え、2012年に父の後を継いで社長に就任した。

組織力を高めるユニークな企業経営

小椋社長は、自社の強みである「組織力」を伸ばすため、ユニークな取組みを行っている。

一つは「目標の共有」で、毎年9月に社員全員で合宿を行い、企業理念を社員に浸透させる。11月にはキックオフミーティングを開催し、取引企業を招いて全社員に向け経営計画を発表する。部門別にブレイクダウンされた経営計画は「経営計画達成シート」として部門毎に掲示され、見える化が図られている。部門目標はさらに個人目標にブレイクダウンされ、社員一人ひとりの「ランクアップノート」に記入される。社員の自主性を尊



代表取締役社長の小椋義則氏（同社本社前にて）

重しつ週単位で目標・実績管理を行い、人事考課もこのノートに基づき行われる。

もう一つは「働きやすい職場づくり」。会社が費用を負担して社員間の定期的な意思疎通を促す「飲みニケーション制度」や、家族参加の社員旅行等のイベント、社員からの自主的な改善提案制度等、様々な仕組みで社員とのコミュニケーションを図り、職場活性化に努めている。

近年、同社は新たに社内託児制度「生駒スマイル」をスタート。生駒市在住の社員を対象に、保育園へのお迎えを代行し、加えて就業時間終了まで子どもを預かることで、仕事と育児の両立を支えている。

一連の取組みが奏功し、一般的に離職率が高い学習塾業界にありながら、同社はメーカー平均以下という低い離職率を実現している。また、同社は会社見学会等を通じて、自社の取組みを同業他社にも積極的に公開し、相互研鑽に努めている。

子どもたちの将来に続く自信を育てる

同社の教育コンセプトは「子どもたちの10年・20年先にも続く自信を育てる」で、これも社員との合宿から生まれたものである。小椋社長は、「学習塾として志望校に合格させることはもちろんだが、今後直面する人生の様々な困難を、子どもたち自身が乗り越えるための『本物の自信』をつけさせることこそが自社の使命」と熱く語る。

これを実現するため、同社は学年ごとに教育目標を設定。例えば小学校低学年では学習意欲やイメージ力を育み、高学年では学習習慣をつけ表現力を高める。中学生からは目標設定・計画・実行・検証・改善を自ら実行する「GPDCAサイクル」を根付かせる。小さな成功体験を積み重ねながら自信を育て、社会に出た時に「自ら判断し、自己実現を図る」人物となることを目標とする。

同社では、始業・終業の挨拶を徹底し、礼儀作法や言葉遣いも丁寧に指導。1教科ごと月に2回実施する「モチベーショントーク」では、授業前



同社の考える「GPDCAサイクル」

の5分間を使ってプロ講師自らの体験談や、理念である「人間大事の教育」に基づいた考え方を紹介し、子どもたちに自らの将来をイメージさせ勉強への意識が高まるよう工夫している。

「奈良県になくてはならない教育機関」を目指して

同社は既存教室の維持・発展に力を入れ、1教室あたり生徒数は年々増加をみている。その一方、子ども向け英語教室や小学校低学年対象の算数教室に加え、少子化を見越し大学生向けの「就勝塾」や社会人向けのパソコン教室等を展開し、多様な教育ニーズに応えている。

『『人間大事の教育』の企業理念を社会に向けて積極的に発信していきたい』との思いから、教育コンセプトを短編ドラマ仕立てにしてホームページで発信している同社。今後も子どもたちや保護者から圧倒的な支持を得る「奈良県になくてはならない教育機関」を目指し、着実に前進を続ける。

(太田宜志、丸尾尚史)



KEC セミナールの授業風景 (左)



子ども英語教室の授業風景 (右)